

# 「デジタル・シティズン シップ」の考え方に基づく 岐阜市版 GIGAスクール構想

岐阜市教育委員会

ご存じのようにICTの進化により、社会・経済の構造が日々大きく変化する「大改革時代」が到来しています。医療、流通、サービス等、様々な分野で、ビッグデータ、人工知能、ロボティクス等の先端技術を活用することで、より便利で安全・安心な生活を私たちに提供しようとする仕組みが日々生み出されています。

「GIGAスクール構想」が文部科学省から提唱されて数年が経ちました。

本日は、「GIGAスクール構想」によって、お子様を取り巻くデジタル環境がどのように変化していくのか、保護者にもご理解とご協力をいただきたく説明のお時間をいただきました。

## タブレット端末の役割の変化

《以前》

学校の共有物

授業で必要なときだけ使う

選択権は教員

学校がコントロール

《現在》

自分の持ち物

学校や家庭で日常的に活用

選択権は児童生徒

家庭との連携が必要

使う権利

より良く使う責任

これまでのパソコン室で利用する全校で共有するコンピュータから、1人1台のタブレット端末に変わったことで、コンピュータの役割も変化します。

必要な時だけ使うものから、日常的に使うものへ変化し、使用時間や使用場所は、教師が指示するものから児童生徒が自ら考えて活用していくものへ変わります。このように、子どもたちは、タブレット端末を使う権利を得たと同時に、よりよく使う責任を持つことになります。

これからは、学校と家庭、社会が連携して、これからのデジタル社会を生きる子どもたちを育てていくことが大切になります。

「情報モラル教育」から「デジタル・シティズンシップ教育」へ

《情報モラル教育》

「～してはいけません」

大人が  
使い方を決める

思考停止

《デジタル・シティズンシップ教育》

「どうしたらいいか？」

子どもたちと  
使い方を一緒に考え共有する

より良く使おう💡

具体的にどうということかと申しますと、  
これまでは、タブレット端末の活用に関し、「～してはいけません」「～は禁止」というトラブル予防の指導ばかりになってしまいがちでした。  
しかし、「～してはいけません」というこれまでのルールや価値観を、大人から教えたり、児童生徒のしていることを、正しいとか間違っているとか、を大人が判断し教えたりするのではなく、それが正しいか間違っているかを自分で考え判断するよう促す指導をしていかなければなりません。判断が難しい場合や色々な考え方がある場合などは、大人や仲間と一緒に考えてルール作りをしていくことが大切ではないでしょうか。

## 「デジタル・シティズンシップ教育」の考え方

《これまでは》



タブレット端末は  
落とさないように



パスワードは  
他の人に教えてはいけません



他の人を  
勝手に撮影してはいけません

⋮

《より良く活用していくには》

「落としてしまったら  
どうすればいい？」

- ✓どこか割れていない？
- ✓電源は入る？
- ✓先生や保護者に見てもらおう

「どうして？」

「どうしたらいい？」

一緒に考える

デジタル・シティズンシップ教育

少し例を紹介いたします。

「人の写真を勝手に撮ってはいけません。」と話しますが、なぜそれがいけないのかが分からなくていいでしょうか。仲の良い友達どうしならいいけれども、知らない人から撮られるのは困ると考える人が多いと思いますが、なかには仲の良い友達でも嫌だと考える人もいるかもしれません。写真を撮るのはいいけれどもSNSへアップすることはやめてもらいたいとか、ダイレクトメールで他の人へ送るのはやめてもらいたいとかないでしょうか。

人によって見方や考え方が違うことを理解することに加えて、他の人がどのような考え方なのかや、どのような問題が起きそうなのかを考える創造力を身に付けることが大切です。

ただ、色々な経験を積まなければ創造力は身に付きませんから、色々な経験をしながら心配なことが起きたときに一緒に考えていくことが大切だと考えます。



## 「デジタル・シティズンシップ教育」とは？

私たちの社会、生活がデジタル化することによって変化

この変化を、前向きに捉え、よりよい方向にするために、  
子ども、教師、保護者、地域の人々が、同じ市民として、

「テクノロジーをうまく活用しながら、デジタル時代の  
善き市民として生きるには、どうしたらよいか？」

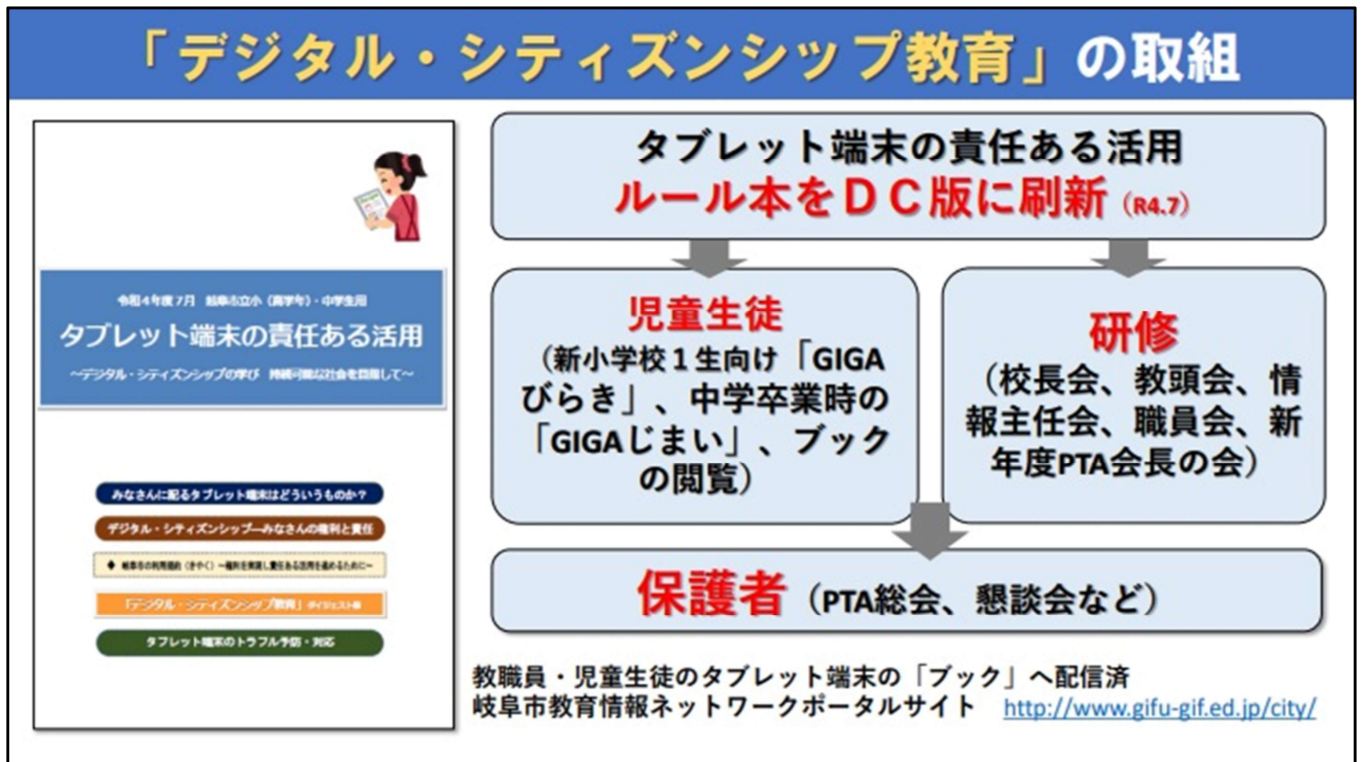
を考える「場」を作る。

これが、「デジタル・シティズンシップ教育」です。

岐阜市教育委員会と岐阜聖徳学園大学及び岐阜聖徳学園大学短期大学部との  
デジタル・シティズンシップ教育推進に係る連携協定  
資料提供：岐阜聖徳学園大学 教育学部 芳賀高洋 教授

「デジタル・シティズンシップ教育」について、  
岐阜聖徳学園大学の芳賀高洋（たかひろ）教授より次のよ  
うに教えていただきました。  
私たちの社会や生活が、デジタル化により変化していく中、  
子供、教師、保護者、地域の人々が、同じ市民として、  
「テクノロジーをうまく活用しながら、デジタル時代の良  
き市民として生きるには、どうしたらよいか？」を考える  
場を作ることです。  
GIGAスクール構想によって、学校を入り口として、私たち  
市民が、同じ市民である児童生徒に対して、公平に、無償  
で、情報端末を貸与しているのは、子どもたちに、それを  
活用する権利を与えたと同時に、それを活用する責任を与  
えたことを意識しなければなりません。

## 「デジタル・シティズンシップ教育」の取組



昨年度「デジタル・シティズンシップ教育」について、このような取組をしてまいりました。

新しいルールブックの「タブレット端末の責任ある活用」を、お子様のタブレット端末で、一緒にご覧いただいた方もいらっしゃると思います。

まだご覧になっていない方は、ぜひご覧いただき、タブレット端末をよりよく使い、お子様のよきパートナーとなるようお子様と一緒に考える機会を持っていただきたいと思います。